

産経新聞 東京朝刊 2020/03/12(木)

台北駐日経済文化代表処代表 しゃちようてい 謝長廷氏 (寄稿)



世界中に大きな衝撃を与えた。

同クルーズ船に乗船していた台湾籍の乗客で陰性が確認された19人は、2月21日夜にチャーター機で台湾に帰ることができた。

先月、横浜港・大黒ふ頭に着岸したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」号の乗員・乗客約3700人のうち、数十の国や地域の約700人に新型コロナウイルス肺炎の感染が広がったことは、世界中に大きな衝撃を与えた。

まで迎えに行き、乗客らの無事を見届けた。台湾到着後、規定に基づいて再検査が行われ、改めて全員の陰性が確認されたことは、何よりうれしかったことだった。感染者の入院・治療にあたって、日本政府および医療関係者の多大なご支援をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

今回の新型コロナウイルスの100カ国・地域以上に及ぶ感染拡大は、世界のいかなる国も例外なく感染症の脅威が迫ってくるのが証明された。まさにウイルスは国籍を

防疫に地理的空白を生むな

選ばない。国際防疫で最も重要なことは、感染症を封じ込める際に「漏れ穴」を作ってはならないということだ。

WHO（世界保健機関）を中心に世界各国が一致団結して「誰も取り残さない」ように取り組む必要がある。台湾はウイルス対策の最新情報を各国と同時に取得して対策の足並みをそろえる必要があり、また台湾が得た経験も各国に伝えたい。そのためには、WHOと情報を直接やりとりできることが重要である。

ところが、台湾は政治的な

理由でWHOにオブザーバーでさえ参加できず、防疫の地理的空白になりかねない状況が続いている。

他方で、台湾は加盟国でないことを理由に、国際防疫に対する責務を放棄したことは一度もない。今回の新型コロナウイルスでは迅速かつ厳格に対処しており、台湾では爆発的増加には至っておらず、今後も拡大することのないよう尽力していく。

感染が世界各国に広がっているなか、台湾は今後も引き続き、日本をはじめ世界各国と力を合わせながら、一日も早い新型コロナウイルス感染流行の終息に向けて取り組んでいく。

(1面参照)